

令和5年度都立小台橋高校における教科指導の重点

教科	重点課題	取組	発展的取組
国語	言語活用能力の育成と向上	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会や実生活に必要な言語活用の具体的な場面を想定した学習活動に取り組む。 ・「話す聞く」「書く」「読む」の三つの力を育む単元をバランスよく設置して、身につけさせたい力を毎時の目標に掲げながら計画的に指導する。 ・短歌の発表会を行い、語彙力と創作力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ学習における課題研究で役立つ力を伸ばすために、「研究の仕方」「レポートや論文の書き方」「人前で発表するためのスキル」等を指導する。 ・読む力や表現する力の向上と共に、読書推進の方策も兼ねて、本を紹介するPOPをスライドで作成し、学習成果発表会で披露する。
地歴公民	社会的な見方・考え方を働かせた学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な見方・考え方を習得する。 ・社会的な見方・考え方をういて、現代的な諸課題を考察する。 	探究活動に力点を置き、現代的な諸課題について社会的な見方・考え方をういて解決策を表現できるようにする。
数学	基礎学力の向上・定着	<ul style="list-style-type: none"> ・数学用語や記号等の抽象概念を理解する。 ・基本的な計算技能に習熟する。 ・定理・公式の活用力を身に付ける。 	思考の過程を数学的に表現・処理して纏め、プレゼンの力を養成する。
理科	義務教育課程内容の抜け漏れを無くす	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校内容を学ぶと同時に、義務教育課程内容の学び直しも実施する。 ・AI教材を活用し、一人一人の学びの個別最適化を実現する。 	実験や探究活動に力点を置き、自然現象を自らの言葉で表現できる人材を育成する。
体育	体力の向上 興味・関心・意欲の向上	十分な運動の機会を確保すると同時に、単元の導入と学びの工夫をすることで、体力の向上と興味・関心・意欲の向上を実現する。	ICT機器と体育の融合を図り、運動のポイントや試合の様子などをパワーポイントや動画を使って学習する。運動の内容を細分化し、スモールステップで運動に取り組む。
芸術	様々な表現方法を知り、自己表現へ活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な芸術分野の作品にふれ、体験し、それぞれの良さを認め、理解する。 ・作品制作や楽器演奏などの体験を通じて、自己表現する。 	本物体験を通じて芸術活動への理解を深める。他者の作品や発表を通じて表現の多様性を理解し、表現の幅を広げる。
外国語	基礎的な語彙の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業(1年次)による指導 ・中学校での学習内容の復習。 ・基礎学習を中心とした教科書の採用(1年次)。 ・スタディサブリの動画視聴を用いた授業を行い、それぞれのレベルにあった指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本物体験での外国人との交流 ・授業内でのプレゼンテーションソフトを用いた発表活動 ・課題研究を通して自分自身で目標を設定し、それに向かって学習する姿勢を養う。
家庭	生活を主体的にとらえる資質・能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生きる力を育てる上で必要となる考え方や知識をワークシートを用いて単元ごとに指導を行う。 ・授業ごとにワークシートを提出させて理解度を把握する。 ・スライドを用いて、復習や欠席を補えるように自主学習の環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住・保育・福祉に関する専門家による指導(本物体験) ・課題研究を通して現代の生活に関わる問題について自らの言葉で意見や解決策を表現できるようにする。
情報	情報や情報技術が果たしている役割の理解・考察	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識や技能の習得を目指した教科書の採用(情報1) ・身近な情報技術について取り上げることで、社会と情報・情報技術との関わりを実感させる ・生徒の本時における理解度の確認や思考を促すための課題を提出させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門学校の講師による指導(本物体験) ・VR等、最新の情報技術を取り入れた課題解決型の授業実践(情報研究2) ・プロが仕事で活用する本格的なソフトウェアを導入した環境(PC教室)の整備
商業	企業のビジネス活動について知って体験する	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な商品やサービスから企業の取り組みや戦略について考察する ・企業の取り組みや実践事例を学び、自分自身のアイデアを提案する。 ・情報処理能力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京証券取引所の見学(本物体験) ・学校周辺の企業を見学し、社会人から企業戦略について質問する機会をつくり、商業の学びが実社会の活動とつながっていることを理解させる。